

第 33 回「まちづくり対話集会」開催内容に関する訂正内容・理由

講師紹介について

講師紹介原文	訂正内容・理由
<p>ブルーガイド元編集長</p> <p>【主な活動】 執筆活動 ～ 単行本50冊 雑誌100冊 編集担当書籍雑誌 ～ 約450冊</p> <p>取材活動～ヒマラヤ登山取材でネパール解 禁後初の日本人ジャーナリストと して入国（昭和48年）</p>	<p>ブルーガイド情報版元編集長</p> <p>執筆活動, 編集担当書籍雑誌数は正確ではあ りません。編集担当本も著作に入れました。</p> <p>ネパール解禁後初の日本人ジャーナリスト はまったくの思い違いでした。</p>

講演内容について

講演内容原文	訂正内容・理由
<p>講演内容前半部分</p> <p>こんばんは、伊藤でございます。 （中 略）</p> <p>私は東京出身でして、親が銀座出身でござい まして、職場も学校を出てから憧れの出版社に 入りまして、120年続いている「実業之日本社」 という東京の日本橋がまだ木だった頃の出版社 なのですが、①最初の編集局長が新渡戸稲造さ んで、今でも正月になると皆で年頭の会を1月 5日に社員同士ですのですが、そこで必ず発 せられる言葉は、「Boys Be Ambitious（少年 よ、大志を抱け）」なんです。そういうことが 社風として、私も30数年間鍛えられていました 。そこで、いろいろな本を作り、②小説も担当 しましたし、旅行のブルーガイドもやったり、 いろいろしまして、</p> <p>③最終的には日本航空が海外に路線を出したと いうので、僕らと一緒に日本航空とブル ーガイドと一緒に、海外のものを出すよ うになりました。</p> <p>④その時の日本航空の担当が北田さんという、 作家になる方なんです、大変有名な方が担当 されていて、その後、私はどういう訳かフラン スのミシュランという、どこかで聞いたことが</p>	<p>①新渡戸稲造は編集顧問でした。 「Boys Be Ambitious(少年よ、大志を抱け)」 は一度、年初に前社長が発しただけです。</p> <p>②小説は担当していませんでした。</p> <p>③海外のものは1960年代に出版が始まってお りますので、私が始めた訳ではありません。</p> <p>④有名な作家になる方というのは、その時の担 当ではありませんでした。</p>

<p>あると思います，料理の格付けをやっていますけれども，世界中のガイドをやっていますが， <u>⑤その日本版の編集長にさせられまして，パリに通っていました。担当しているときには人前では言えないものですから，だまっていたけれども。</u> (中 略) <u>⑥57歳の誕生日の時にその出版社を，これ以上居ると65歳まで居させられそうなものですから，勝手に辞めまして，自分で出版社をしつつ，学校で非常勤講師で教えているところでございます。</u> (中 略)</p> <p>講演内容前半部分</p> <p><u>⑦フランスのミシュランに居た時に，京都やパリを往復していたんですけれども，</u></p>	<p>⑤ミシュラン日本版の編集長ではなく，正しくは，「ミシュラン担当部編集長(書籍・ムック)」で，パリにも通ってはいませんでした。</p> <p>⑥57歳で辞めてはおりますが，不遜な表現でした。</p> <p>⑦フランスのミシュランに居たことはなく，その目的で京都やパリに行ったことはありませんでした。</p>
---	---